

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

田村勝博	氏	吉南医師会	9月11日	享年82
林龍之介	氏	宇部市医師会	10月10日	享年54
貞國 燿	氏	山口市医師会	10月22日	享年85

編集後記

令和4年7月号の編集後記の続きである。編集後記を連載風に改変するなど、邪道な気もするが、作家でもない私が次々と新しい話題を見つけ出すことは難しく、もうしばらくお付き合い願いたい。

「さわってみます？」

少し離れたところに、若い、しかし昆虫専門店にしては少し場違いに感じる、やや派手なメイクをした女性店員が話し掛けてきた。

どうやら、つぶやくというには大声すぎたらしい。周りの人にも聞こえていたようだ。

ところで、この女性店員もむしマニアなのだろうか。いずれにせよ、生まれてはじめての外国産カブト・クワガタ達に出会えたことだけで、感激のあまりすでに昇天してしまっている私に、もはや虫を「さわるかどうか」、などはどうでもいいことであった。

その日を境に、私の生活は大きく変わった。いや、変わり果ててしまった。週末はムシ屋めぐり。平日は、そのころ大変流行していた昆虫のネットオークションをこまめにチェック。なぜなら、稀ではあるがすぐにでもブリードギネスが狙えるような優良血統が出品されてることがあり、それらを見落とさずに落札するためである。

そうこうするうちに、大小100個以上の虫かご（たくさん積み重ねができるタイプ）が、部屋を占拠するようになった（繰り返しになるがワンルームマンションである）。

俗に言う「大人買い」という奴だ。カブト・クワガタにも数々の種類がいる。世界最長のカブトムシとして有名なヘラクレスオオカブトも、嗜みとして飼育していたが、あくまで私の専門種目は世界最重量級のゾウカブト系。理由として、ゾウカブトは体長（長さ）ではヘラクレスに劣るものの、体積（横幅）的にはヘラクレスオオカブトをはるかに凌駕し、見た目の総合的インパクトがものすごく「でかい」からである。比較的最近まで、そのでかいものをさらにでかく育ててやろうということに、どうやら憑りつかれてしまっていたようだ。

当時、勤務していた病院の院内報に寄稿した、文章の一部抜粋が以下のようなものである。

「ゾウカブトをブリードして、ギネス級成虫を羽化させ、むし社のBEKUWAという雑誌（＝BEKUWAとは、『月刊むし増刊号』のことで、日本ブリードギネス認定を行っている）に投稿するのが現在の目標である。」とある。なんじゃこりゃ。

子供が書かされる「将来の夢」というやつに、「カブトムシのギネスを作る」と書いたなら笑えるが、社会人でこんなことを書こうものなら、親は通常泣くだろう。現在の私からの生温かい視点では、「昔の君はなかなかの暇人だったんだね・・・（ため息）」、という感想である。

（次回で伏線回収して、完結予定）

（理事 藤原 崇）